



ひなた
子どもが輝く日向をつくろう！

—日向市子どもの未来応援プロジェクト—

日向市

子どもの貧困対策に関する教職員アンケート

集計結果

令和2年3月

日向市福祉課 保護第1・2係

日向市 子どもの貧困対策に関する教職員アンケートの結果

平成28年12月実施分

- 調査対象 日向市立小・中学校勤務の教職員
- 調査期間 平成28年11月14日（月）から12月2日（金）
- 調査方法 小・中学校に、調査票の配布、回答票の回収の協力
- 回収目標 90%

回収状況	配布数	回収数	回収率
小学校教職員	250	236	94.4%
中学校教職員	155	152	98.1%
合計	405	388	95.8%

令和元年10月実施分

- 調査対象 日向市立小・中学校勤務の教職員
- 調査期間 令和元年10月7日（月）から10月25日（金）
- 調査方法 小・中学校に、調査票の配布、回答票の回収の協力
- 回収目標 90%

回収状況	配布数	回収数	回収率
小学校教職員	240	231	96.3%
中学校教職員	144	137	95.1%
合計	384	368	95.8%

問1) あなたの年代をおたずねします。

	H28.12月	R1.10月		H28.12月	R1.10月
1. 20歳台	11.3%	14.9%	4. 50歳台	33.0%	35.1%
2. 30歳台	21.6%	17.4%	5. 60歳台	4.9%	4.6%
3. 40歳台	28.9%	27.4%	無回答	0.3%	0.6%

問2) この4～5年間で、生活に困窮する子どもや家庭は増えていると思いますか？
あてはまる番号を1つ選んでください。

	H28.12月	R1.10月		H28.12月	R1.10月
1. ずいぶん増えている	12.9%	12.0%	4. 減っている	1.0%	1.1%
2. やや増えている	49.0%	46.7%	5. よくわからない	15.5%	14.1%
3. あまりかわらない	21.1%	26.1%	無回答	0.5%	0.0%

問3) 日向市内の学校に赴任して以来（長期にわたる場合は市内学校に赴任してここ2～3年）、子どもの様子からうかがえた特徴的な困窮の状況について、あてはまる番号をすべて選んでください。**(複数回答)**

	H28.12月	R1.10月
1. 家庭的な事情から朝食を食べていない	45.6%	47.3%
2. 衣服が前日と変わっていない(またはパターンが少ない)	32.5%	24.2%
3. 衣服・制服・体操服が洗濯されていない	40.7%	31.0%
4. 衣服・制服・体操服の傷みが縫製されていない	29.6%	27.2%
5. 異臭がする	34.5%	29.1%
6. シラミがみられる	9.3%	7.6%
7. 保護者が校納金・給食費を滞納する	72.9%	66.0%
8. 費用負担ができず、遠足・修学旅行に参加しなかった	6.4%	10.6%
9. 経済的な理由から進路を限定してしまった	10.8%	10.3%
10. 保護者が参観日に来れない(休めない)	47.2%	41.8%
11. 夜間子どもだけで過ごしている	47.2%	50.5%
12. 自宅で勉強できる環境(場所・勉強をみる人)がなく、宿題ができない	47.9%	43.8%
13. 必要な医療(歯科や予防接種など)を受けていない	38.4%	36.7%
14. 他の子どもたちと同じ物を持ってない (学用品・クラブ用品・趣味など)	12.9%	11.4%
15. 他の子どもたちと交わろうとしない	7.5%	6.0%
無回答	2.6%	5.2%

問4) 学級担任の方にうかがいます。あなたが現在担任をするクラスで、前問 問3) のいずれかの困窮の状況がうかがえる児童生徒の割合はどれくらいですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

	H28.12月	R1.10月		H28.12月	R1.10月
1. 0%	8.0%	11.7%	7. 26～30%	0.8%	0.5%
2. 1～5%	24.0%	25.3%	8. 31～40%	0.0%	0.3%
3. 6～10%	13.9%	12.8%	9. 41～50%	0.3%	0.3%
4. 11～15%	4.4%	4.1%	10. 51%以上	0.0%	0.3%
5. 16～20%	2.0%	2.7%	無回答(学級担任以外を含む)	45.1%	40.6%
6. 21～25%	1.5%	1.4%			

問5) 貧困・生活困窮が子どもの学力に影響を及ぼすと思いますか？

	H28.12月	R1.10月		H28.12月	R1.10月
1. 思う	94.6%	97.0%	無回答	1.3%	0.0%
2. 思わない	4.1%	3.0%			
上記で1を選択された方におたずねします。その具体的な理由として、あてはまる番号をすべて選んでください。また、その他の状況があれば、⑥を選び記入をお願いします。(複数回答)					
	H28.12月	R1.10月		H28.12月	R1.10月
①家庭で学習できる環境(スペース・生活状態)の欠如	68.4%	70.0%			
②家庭で勉強をみてる人の欠如	68.1%	65.0%			
③親子の対話をととした学習意欲の動機づけや 将来の目標設定の弱さ	85.0%	84.3%			
④補習の教材がそろえられない	17.7%	16.5%			
⑤塾など補習の機会がない	22.3%	19.0%			
⑥その他	4.6%	4.5%			
無回答	0.5%	0.3%			

問6) 貧困・生活困窮が子どもの言動や置かれようとしてどのようにあらわれていますか？あてはまる番号をすべて選んでください。またその他の状態が見受けられる場合は、11を選び、記入をお願いします。(複数回答)

	H28.12月	R1.10月
1. 家庭を悲観し、つらさを訴える	8.2%	12.8%
2. 落ち着きがない	49.5%	49.2%
3. イライラしている	28.9%	33.4%
4. 表情が暗い	57.0%	59.0%
5. いつも不安げである	24.2%	28.5%

6. 虐待(もしくは疑い)が見受けられる	10.3%	10.3%
7. 放任にさらされている	55.4%	56.8%
8. 栄養状態が心配	31.7%	30.4%
9. 学力に遅れがみられる	60.6%	64.7%
10. 特に影響はない	1.8%	0.8%
11. その他	3.6%	5.4%
無回答	3.1%	1.1%

問7) 公的支援についておたずねします。

(1) 関わっている家庭に、就学援助を個別に紹介したことはありますか。

	H28.12月	R1.10月		H28.12月	R1.10月
1. 紹介したことがある	35.8%	35.3%	無回答	2.3%	1.7%
2. 紹介したことはない	61.9%	63.0%			

(2) 生活困窮がうかがえ、何らかの公的支援が必要な家庭で、就学援助や生活保護などを受給していない家庭が、クラス内もしくは校内で見受けられますか。

	H28.12月	R1.10月		H28.12月	R1.10月
1. 見受けられる	29.4%	27.7%	3. わからない	45.6%	45.7%
2. 見受けられない	23.2%	23.6%	無回答	1.8%	3.0%
上記で1を選択された方におたずねします。受給をしないのは何故だと考えますか？あてはまる番号を1つ選んでください。 (特に就学援助については、毎年、年度当初に教育委員会から案内は行っていますが、年度当初からの申請だけではなく、年度途中や後半からの申請が増えています)					
	H28.12月	R1.10月		H28.12月	R1.10月
①制度や手続き(窓口)がよく知られていない	30.7%	36.3%			
② 申請をしたが認定されなかった (または受給要件みださず申請していない)	9.6%	7.8%			
③ 保護者に申請意思が見受けられない (公的な支援を利用したくない)	49.1%	38.2%			
④わからない	9.6%	11.8%			
無回答	0.9%	5.9%			

問8) 民間支援についておたずねします。

(1) ここ数年で民間団体による支援の輪が急速に広がりを見せています。以下の民間支援の取り組みを知っていますか？

R1. 10月	知っている	知らない	無回答
(ア)子ども食堂 ※1	95.1%	3.5%	1.4%
(イ)子どもの学習支援 ※2	74.2%	22.6%	3.2%
(ウ)フードバンク・食料配達支援 ※3	55.7%	39.7%	4.6%
(エ)フリースペース(悩み相談) ※4	61.7%	33.2%	5.1%

※1 子ども食堂・・・子どもに地域の大人と交流しながら、食事ができる機会を提供する取り組み。(食事が十分でなかったり、孤食がちな子どもに食事を提供する目的もある。)利用者に制限はなく、地域における子どもの居場所となっている。

※2 子どもの学習支援・・・学習習慣を定着できる機会が、家庭環境から不足している小中学生を対象に、大学生や元教員などの協力で、宿題や苦手教科などの学習をサポートする。

※3 フードバンク・食料配達支援・・・食の確保が難しい場合に、一時的に食料を支援する。見守りも兼ね、家庭に配達する団体もある。(食料は個人や企業からの無償提供)

※4 フリースペース(悩み相談)・・・不登校、ひきこもり等の悩みを持つ子どもの居場所であり、保護者を含めた相談・交流ができる拠点。

(2) 貧困・生活困窮がうかがえる、子どもや家庭に対して、民間支援の役割をどのように考えますか？教育との連携という観点から、ご意見がありましたら、ぜひお聞かせください。(自由筆記)

問9) 子どもの貧困対策の進捗状況について

平成26年1月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行されて以降、行政・企業・民間団体などにおいて、様々な子どもの貧困対策の取り組みが進められていますが、教育の現場で、改善・拡充が進んでいると感じる施策がありますか？

あてはまる番号をすべて選んでください。(複数回答)

	R1.10月
1. スクールソーシャルワーカーの配置の拡充	42.1%
2. スクールカウンセラーの配置の拡充	41.8%
3. 教職員の業務軽減	12.8%
4. 就学援助制度の家庭への周知の徹底	25.0%
5. 要保護児童対策協議会との連携	24.7%
6. 福祉行政との連携	29.9%
7. 民間支援との連携	16.3%
8. 特に感じられない	25.3%
9. その他	1.9%
無回答	3.3%

問10) 親子の生活や修学の環境保障の支援・フォローとして、どのような取り組みが必要と考えますか。あてはまる番号をすべて選んでください。その他、必要と考える取り組みがあれば、9を選び記入をお願いします。(複数回答)

	H28.12月	R1.10月
1. 健康管理や生活の過ごし方への助言	47.2%	49.7%
2. 家計管理の助言・支援(支出を整理・見直し、家計の繰越を増や)	40.7%	42.9%
3. 子育てについての相談先	46.4%	56.0%
4. フードバンク(寄付による食料提供支援)の拡充	18.0%	20.1%
5. お子さんへの学習支援(無料の個別支援や勉強会)の拡大	53.1%	53.8%
6. 公的援助の拡充(就学援助・市奨学金・医療費助成など)	44.1%	41.6%
7. 親と子のそれぞれの居場所(ホッとできる場所&身近なことが相談できる場所)	34.5%	41.0%
8. 気軽に参加できる地域の取り組み(身近な知り合いづくり)	24.0%	27.2%
9. その他	4.4%	2.7%
無回答	1.0%	1.4%

問11) 政府の「子どもの貧困対策大綱」では、子どもの貧困対策の重点施策として、「学校をプラットフォームとした総合的な子どもの貧困対策の展開」「教育と福祉の連携」がうたわれています。これらの具体化としてどのような取り組みが有効と考えますか? あてはまる番号を3つまで選んでください。(〇は3つまで)
その他、有効と考える取り組みがあれば、9を選び記入をお願いします。

	H28.12月	R1.10月
1. スクールソーシャルワーカーの配置の拡充 (中学校区単位での配置など)	34.5%	39.9%
2. スクールカウンセラーの配置の拡充(全校への配置など)	36.6%	39.1%
3. 訪問型家庭教育支援を行う家庭教育支援チームの市での配置	45.9%	50.0%
4. 要保護児童対策協議会の機能拡充による個別ケース会議の増加 や伴走型支援	21.6%	19.0%
5. 教職員の追加配置または業務軽減	56.2%	56.3%
6. 少人数の習熟度別指導や放課後補習	36.3%	27.7%
7. 学校を拠点とした地域による学習支援やNPO等による 親子の相談支援	20.4%	11.7%
8. 学校と違う居場所である、親子の居場所支援団体や フリースクールとの連携	14.7%	14.9%
9. その他	2.8%	1.4%
無回答	0.8%	1.9%

*家庭教育支援チーム・・・文部科学省が推進している子育て経験者や教員OB、PTA、児童委員、保健師、臨床心理士などで構成し、子育てや家庭教育の相談、親子参加の取り組みや講座の開催、地域の情報提供などを行い、学校や行政、福祉機関と連携するチームです。

*フリースクール・・・何らかの理由で学校に行けない子どもが学校の代わりに過ごす教育機関です。

問12) その他、気になっている子どもや家庭の状況や、生活困窮をめぐる身近な課題、または貧困対策の拡充に向けたご意見などありましたら、ぜひお聞かせください。

(自由筆記)

ご協力いただき、ありがとうございました。